

受難の主日（枝の主日）

入城の福音 マタイ 21・1-11

受難の朗読 マタイ 27・11-54

2026.3.29

カトリック高円寺教会 9:30 ミサ
ニティン助祭（イエズス会）

兄弟姉妹の皆さん、おはようございます。今日は「枝の主日」であり、聖週間が始まります。

今日の典礼では2つの福音の朗読がありました。最初の福音では、キリストはエルサレムに向かって王として入城されます。最後に読まれた福音では、キリストは十字架に向かって死を受け入れられます。

この2つの福音には、キリストから学ぶべきことがたくさんあります。しかし今日は、福音に登場する2つの「群衆」に注目したいと思います。キリストがろばの子に乗って来られたとき「ホサナ」と叫んだ群衆——「ホサナ群衆」——と、ピラトに対して「十字架につけろ」と言った群衆——「十字架群衆」——です。

「ホサナ群衆」はキリストのことを知っており、「この方はガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ」と言いました。おそらくキリストが行われた多くの善い業^{わざ}を見たり、その教えを聞いたりしたことがあったのでしょう。だからこそキリストを賛美しました。

一方で、「十字架群衆」も同じようにキリストの善い業を見聞きしていたはずですが。しかし、彼らは周囲の人々に流される群衆になってしまいました。自分たちが直接経験した恵みを忘れてしまったのです。

キリストの弟子であるわたしたちも、「ホサナ群衆」の一員だと言えます。キリストを知り、主に従うためにミサに来て、「ホサナ」と歌います。しかし、ミサで祈っていても、日々の生活の中でキリストの愛の教えを生きていなければ、いつの間にか「十字架群衆」になってしまう可能性があります。

ミサの時だけ「ホサナ群衆」になるのではなく、毎日の生活の中でもそうであるために、日々の祈りと生活の振り返りが大切です。言葉だけではなく、行いにおいても「ホサナ群衆」であれるよう祈りましょう。

キリストの愛をより身近に感じるために、この聖週間、時間を取って受難の物語をゆっくりと読み、主の歩みに付き添いましょう。

父と子と聖霊のみ名によって。アーメン。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>